

平成16年度 第1回人工海浜専門部会 議事概要

日 時：平成16年9月13日(月) 13:00～

場 所：サザンプラザ海邦 4F 琉球の間

参加者：入江座長、栗山委員、新城委員、仲宗根委員

沖縄総合事務局、沖縄県、沖縄市、(財)港湾空港高度化環境研究センター

欠席者：仲座委員

概 要

入江座長挨拶

- ・昨年度、本専門部会は社会条件、自然条件、土地利用をふまえながら総合的に検討してきた。
- ・ビーチの計画は自然に逆らわないよう、力学条件を踏まえて、沖縄らしい、泡瀬にふさわしいビーチの形状(断面、平面)を検討していきたい。

資料 - 1：人工海浜専門部会における指摘事項とその対応について

- ・特になし

資料 - 2：海浜安定の検討について

- ・1ラインモデルの計算式のK1、K2の値を決定に至る検討の課程を示し、根拠が妥当であるということを報告書に残すこと。(K1：漂砂量(スピード)、K2：遮蔽物の変化による影響)
- ・海浜の安定性については、左右対称形にこだわる必要はなく、景観上の問題やロングビーチ、視界を妨げない広い水平線といったビーチの特性を踏まえ、安定したビーチを検討すべきである。
- ・シミュレーションの実施に際して、決定の条件などの季節変動を配慮したか？
昨年度時点では、半年間の波浪データからのシミュレーションである。ただし、冬場は静穏な海域であるため、大きな変動はないと考えている。
- ・砂が出て行かないことが大切。次に、生物のエリアは原風景を踏まえ沖縄らしいグンバイヒルガオ等の植生にしてはどうか。
- ・自然な海岸を目指すのであれば、砂の安定が重要である。
- ・水平線の上に構造物が出る離岸堤は景観上問題がある。
- ・海浜の安定断面と底質の関係等について、現地での実測データを含め今後示してほしい。

資料 - 3人工海浜の基本計画（動線、景観および環境計画）について

- ・オカヤドカ리는夜間活動し、1 kmも移動することもあることから、現計画の100 mの砂浜でもオカヤドカ리의活動には支障がないと思う。
- ・前回の部会において、提案がされていたマングローブやトカゲハゼの生息環境については、今後人工干潟を検討する場において、検討していきたい。
- ・飛砂流出が避けられないことから、人工海浜においての100%のメンテナンスフリーは難しいが、波浪によって大きく砂が流出してしまうことに対する対策は可能である。
- ・大潮時における干潮時および満潮時の汀線位置を示す資料がほしい。
次回提示する。
- ・植物は、海岸環境に強いものを選んでいるが、植栽の方法、配置についても検討してほしい。単独では生育できず、集団でのみ生育するものもある。
- ・海浜植栽をする場合うまく育つように、原風景に近いと思われる場所の土質を調査したほうがよい。

その他

- ・特になし